

37. 光センサーナシ共同選果施設の多面的評価

福島県農業試験場経営部・平成11年度春夏作試験成績概要

- 1 部門名 農業経済－その他－計測・調査法 14－99－64600000
2 担当者 新田耕作
3 要 旨

JA郡山市に導入された光センサーナシ共同選果施設を施設単独の経済評価だけでなく、事業主体であるJA、利用農家、自治体の3面から費用と便益を測定し、多面的に評価することを通じてその導入効果を測定した。

- (1) 施設単独の経済性を評価すると、費用は20,310千円、収入は21,950千円となり、収入が費用を1,640千円上回った。
- (2) 本施設を導入したJA郡山市と未導入JAの等級別卸売市場価格を比較し、本施設の導入が価格に及ぼす影響を計測した結果、JA郡山市のkg当たり単価が高く、秀品で7.3円、優品で18.1円、良品で59.6円の有意な価格差が認められた。
- (3) 本施設の導入に伴う利用農家の新たな負担は、機械利用料金の増加額5,368千円であった。一方、対照地域との価格差を単価向上による利用農家の便益としてとらえると11,569千円となった。また、単価向上分に対する販売手数料の増加は、間接的費用として289千円と推定された。その結果、導入後の利用農家への影響は、費用が5,657千円、便益が11,569千円と推定され、便益が費用を5,912千円上回った。
- (4) 郡山市は、本施設の導入に当たり、農業施策として補助金を支出しており、この支出金額を繰延資産とみなし単年度あたりの費用を試算すると4,743千円となる。また、選果施設の導入に伴う便益は、固定資産税、住民税等1,277千円の税収であった。
- (5) 本施設の導入効果を地域全体で総合的に評価した結果、費用が30,710千円、便益が35,085千円となりプラスの効果を及ぼしていることが明らかになった。